

建築家 C.F.A. Voysey の住宅作品の外観意匠の特徴について

About peculiarity of C.F.A. Voysey's house elevation

○川崎圭祐¹ , 大川三雄²

*Keisuke Kawasaki¹, Mitsuo Ohkawa²

Abstract: CFA Voysey(1859~1941) is worked in Domestic Revival:expand in England 19 Century.Before 1950,Voysey appraised as pionner of modern design. But recent years, it was reappraised that his architectecture has tradition.In fact, Voysey's house was took elements from Blitish traditional country house.

1 . はじめに

19 世紀末の英国において展開されたドメスティック・リヴァイバル（住宅復興）の建築家 C.F.A. ヴォイジー (Charles Francis Annesley Voysey 1859~1941) は 1950 年頃まで「近代建築の先駆者」との評価がなされていたが、近年、伝統性を持った建築家であるとの再評価がなされている。また小林正子の一連の論文において屋根形態、室名利用、ゴシックの原理に基づいた、装飾の簡潔性からヴォイジーの伝統性が述べられている。だが、外観意匠での伝統性の読み取りはなされていない。

2 . 研究方法

本稿はヴォイジーがゴシック復興主義への回帰へ至るまでの住宅作品における伝統性の読み取りを行う。外観意匠を決定づける要素として考えられる、壁面の仕上げ、出入り口、窓、煙突の形、バットレス、屋根形態といった外観意匠の要素から伝統性及び彼の設計思想を読み解いていこうと思う。彼の作品の中から立面の確認が可能な 1885~1909 年のヴォイジーがゴシック復興主義に傾倒するまでの 22 作品をあげ、各項目について

表 1 に示す。この後の作品に関しては稿を改めて論じたいと思う。

3 . 外観意匠の特徴とその傾向

3-1. 壁面の仕上げ

ヴォイジーの住宅作品を通して、ラフキャストの使用がみられる。ラフキャストとは石壁の防水処理として、消石灰を主体とするモルタルを粗塗りする仕上げで、主にイングランド中・北部地方のコテージに用いられているものである。ハーフティンバーは主に森林地帯において用いられた構法で、ヴォイジーの師であるジョージ・デイビィが多く用いていた。初期の頃、デイビィの影響が強く残っていたため、作品の中にハーフティンバーがみられる。(図 1)しかし、簡素化というプロセスにおいてハーフティンバーはそぎ落とされ、ラフキャストのみが用いられ展開されていった。(図 2)

3-2. 出入り口の形態

初期に尖頭アーチというゴシックの要素が見られる。これは彼が見習い時代にジョン・P・セドンのというゴシック復興主義の建築家のもとで建築を

	年代	建築名	壁	出入り口	壁体窓	煙突の形	バットレス	屋根形態
1	1885	COTTAGE FOR MR AND MRS CFA VOYSEY	ラフキャスト+ハーフティンバー	尖鋭アーチ	横長	正方形	有	寄棟
2	1888	COTTAGE	ラフキャスト	上部平ら	横長	正方形	有	寄棟
3	1890	WALNUT TREE,FARM	ラフキャスト+ハーフティンバー部分	上部平ら	横長	正方形	有	切妻
4	1891	14 SOUTH PARADE	ラフキャスト	上部平ら	横長	正方形	なし	寄棟
5	1893	PERRY CROFT	ラフキャスト	上部平ら	横長	正方形	有	寄棟
6	1894	AN ARTIST'S COTTAGE	ラフキャスト+レンガ	上部平ら	横長	正方形	なし	寄棟
7	1894	LOWICKS	ラフキャスト	上部平ら	縦長+横長	正方形	有	寄棟
8	1895	ANNESLEY LODGE	ラフキャスト	上部平ら	横長	正方形	有	寄棟
9	1896	GREYFRIARS	ラフキャスト	上部平ら	横長	正方形	有	寄棟
10	1897	NEWPLACE	ラフキャスト	上部平ら	横長	正方形	有	寄棟
11	1897	NORNEY	ラフキャスト	上部平ら	横長	正方形	有	寄棟
12	1898	BROADLEYS	ラフキャスト	上部平ら	横長	正方形	有	切妻+CW
13	1898	MOORCRAG	ラフキャスト	上部平ら	縦長+横長	正方形	有	寄棟+CW
14	1899	SPADE HOUSE	ラフキャスト	上部平ら	縦長+横長	正方形	有	寄棟
15	1899	THE ORCHARD	ラフキャスト	上部平ら	横長	正方形	有	寄棟+CW
16	1901	PASTURES	ラフキャスト	上部平ら	横長	正方形	有	切妻+CW
17	1902	VODIN	ラフキャスト	半円アーチ	横長	正方形	有	寄棟
18	1905	HOLLYMOUNT	ラフキャスト	半円アーチ	横長	正方形	なし	寄棟
19	1905	THE HOMESTEAD	ラフキャスト	半円アーチ	縦長+横長	正方形	なし	切妻
20	1907	LITTLEHOLME(GUILDFORD,SURREY)	ラフキャスト	上部平ら	横長	正方形	なし	寄棟
21	1909	LITTLEHOLME(KENDAL,CUMBRIA)	石	半円アーチ	縦長+横長	正方形	なし	寄せ棟
22	1909	LODGE STYLE	石	半円アーチ	尖鋭式	正方形	有	切妻+CW

表 1:外観意匠の特徴 CW=Cross Wing

学んでいたことによる影響であると考えられる。それ以降は簡素な上部が平らな出入り口を用いていたが、後期には半円アーチを用いている。半円アーチが用いられ始めた頃は装飾のない簡素な出入り口であったが、1909/LODGE STYLE(図3)では装飾化された半円アーチがあり、ヴォイジーがゴシック復興主義へと回帰していく様子がうかがえる。

3-3. 窓枠の形態

ヴォイジーの住宅作品の窓は初期の頃からずっと用いられた要素であり、縦長の窓を横に何連が重ねる形式であった。これは窓の面積を広くし、採光をより多く取り入れるためのものであ。1909/LODGE STYLEの尖鋭式の窓からもヴォイジーがゴシック復興主義へと回帰していく様子がうかがえる。

3-4. 煙突の形態

この時代においてマッシヴな形の煙突は多く用いられていた。ヴォイジーは壁と同じラフキャスト仕上げを用いることによって、屋根と水平窓によって強調された水平性を分断するデザイン的要素として用いたと考えられる。

3-5. バットレスの有無

ヴォイジーは壁圧を薄くすることができるという経済場のメリットからその使用を説明しているが、煙突と同様に垂直的なデザイン要素として用いたと考えられる。初期においてバットレスは多様されていたが、簡素化され少なくなっていく。初期・中期には中型のカントリーハウスが多く機能的な面でもバットレスが用いられていたが後期にはバットレスがなくなってしまう傾向が見られるが、これは規模の小さい、バットレスの必要のない住宅が施主に求められたことによるものであると考えられる。

4 ヴォイジーの伝統論

ヴォイジーは地域特性を排除した近代建築を目指したのではない。その地方毎の伝統的要素を取り入れたり、敷地からの要素を取り入れたりする



図 1: COTTAGE FOR MR AND MRS VOYSEY

など大地に根ざした建築を目指していた。ヴォイジーによって多くの住宅が建てられた時期において、ヴォイジーのスタイル以外の一貫していない要素が見受けられるのはそのためである。ヴォイジーは自らの設計」において伝統的要素を重視しながらも、自らは伝統主義者ではないと名言している。それは伝統を忠実に守っているだけで「その奴隷になってはいない」^①とし、「私の建築は何も新しいものはないが、新しい考えと感覚がある」^②と主張し、「真のオリジナリティというものには、常に個々の芸術家によって、伝統的な形態の発展に精神的な何かが与えられるものである」^③という思想のもと多くの住宅建築を残した。

〈参考文献〉

- [1] 片木 篤 著「アーツ・アンド・クラフツの建築」SD選書、2006年 2月
- [2] 大橋 竜太 著「イングランド住宅史」中央公論出版、2005年 2月
- [3] STUART DURANT 「C.F.A.Voysey」Academy Editions/St.Martin's Press
- [4] 片木 篤 著「イギリスの郊外住宅 - 中流階級のコートピア -」住まいの図書出版、1987

〈出典〉

- ① Voysey, C.F.A.: Architecture and Archaeology, R.I.B.A. Journal, 44, 34, 1936. 11. 7
- ② Betjeman, J.: C.F.A. Voysey, Architects' Journal, 91, 234, 1940. 2. 29
- ③ Voysey, C.F.A.: A Lecture in Feb. 1934, R.I.B.A. Journal, 41, 479, 1943

〈注釈〉

1: 19世紀英国において産業革命に新たに生まれた中産階級の多くが猥雑不潔な都市とは離れた郊外に住宅を求めたことと、当時の建築家が主にビュージン・ラスキンによって提唱されたゴシック・リヴァイバルの思想に影響を受け、中世の様式や思想に基づいて多くの住宅が建てられた。これがドメスティック・リヴァイバル（住宅復興）と呼ばれている。

〈図出典〉

図 1~3: 出典②より



図 2: 14 SOUTH PARADE



図 3: LODGE STYLE